



旭川市と泉大津市 オーガニックビレッジの取組

2025年1月16日

北海道旭川市

ASAHIKAWA CITY

- 1 旭川市と泉大津市の紹介
- 2 両市の農業における課題
- 3 連携までの経過
- 4 実施プロジェクト
- 5 連携後の両市の変化
- 6 まとめ

1 旭川市と泉大津市の紹介

旭川市の紹介



旭川

札幌まで
車(高速道路利用あり)
で約1時間30分
JRで約1時間25分

韓国・仁川
(アジアナ航空)
約3時間25分

台湾・台北
(タイガーエア台湾)
約4時間15分



成田 (Jetstar)
約1時間45分(1日1往復)

羽田 (JAL・AIRDO/ANA共同運航)
約1時間50分(1日7往復)

名古屋 (ANA・季節運航)
約1時間55分(1日1往復)

大阪 (JAL・季節運航)
約1時間45分(1日1往復)

◇人口 **316,183人**

▶ 東北以北で **5位**

◇面積 **74,766ha**

▶ 東京都**23区**より大きい

※622km²

旭川市の紹介



北口 榛花選手



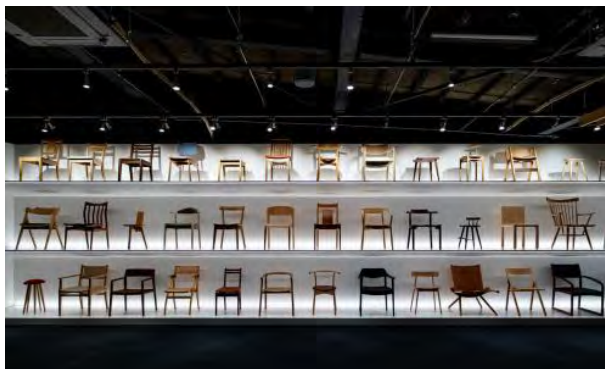
スポーツ王国旭川



旭川ラーメン



平和通買物公園



旭川家具



旭山動物園

旭川市の農業

◇農地面積 **11,596ha**

稲作、畑作、野菜、果樹、畜産、花きなど**幅広い農産物を生産**

▶**北海道内第1位**の稲作

▶**多品目栽培**の野菜

※60品目以上生産



道内1位



道内1位

作付面積：5,680ha 収穫量：35,500t

主な品種：ゆめぴりか、ななつぼし

→**13年連続特Aランク**



小松菜 春菊 チンゲン菜 ターサイ
パセリ サラダ菜 ラディッシュ ししとう

→**北海道内出荷量1位**

泉大津市の紹介

泉大津市

◇人 □ 72,724人
◇面積 1,433ha
◇農地面積 34ha
※旭川市の0.002%

- ▶ 大阪都心部と関空
まで**電車で20分**
- ▶ 江戸時代から
繊維産業が盛ん
- ▶ **日本一の毛布のまち**
ニット産業も注力

泉大津市の紹介



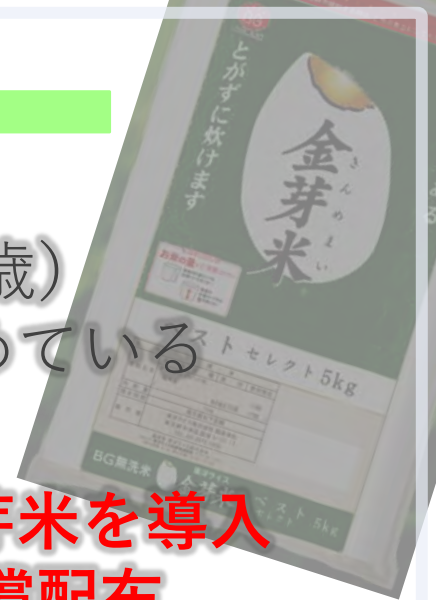
泉大津市長 南出 賢一 氏

昭和54年12月20日生（45歳）

医食同源のまちづくりを進めている

▶食や健康を守る取組を推進

- ・学校給食に栄養価の高い**金芽米を導入**
- ・妊婦に金芽米を**毎月10kg無償配布**



■ 金芽米…

- ・玄米には旨みや栄養が詰まっている層があるが**白米にする過程で削り取られていた。**
- ・東洋ライス独自の技術により、**旨みや栄養が詰まっている層を残すことに成功。**
- ・栄養価は**ビタミンB1は約7倍、食物繊維は約1.8倍、オリゴ糖は約12倍**となっている。



泉大津市の紹介



「シーパスパーク」

市民活動を受けとめる場として整備。レストランやリトルヴィレッジが設置される予定。



「浜街道」

各時代の町屋建築が多数残される泉大津市の貴重な文化資産

2 両市の農業における課題

泉大津市の農業の課題

▶ 農地が少ない

(農地面積34ha※旭川市の0.002%)
…泉大津市単独での食糧確保は困難

泉大津市が目指しているもの

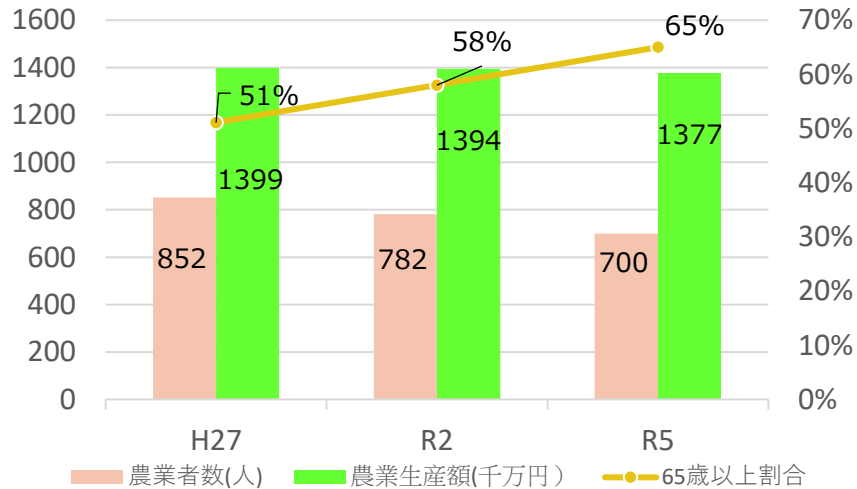
【市民の健康増進】

【食糧危機への備え】



旭川市の農業の課題

▶ 農業者の減少、高齢化 農業生産額の停滞



- ・ 農業者は10年で**18%減少**
- ・ **65歳以上が65%**を占める
- ・ 農業生産額はここ20年ほぼ横ばい

▶ 有機農業の課題

- ・ **生産コストの増**
(収量減、作業量増)
- ・ 適正価格で購入して
もらえる**販売先の確保**



有機米生産者（株）石坂ファーム 石坂代表

▶ 平成15年から有機米栽培を開始

- ・当初は実家の家族経営の少人数で栽培を始める
→以降現在まで最適な栽培方法について
模索を続けてきた。

▶ 栽培において苦勞をした点

- ・除草や土づくりなどのノウハウがないこと
- ・手間の割に収穫量が少なくなってしまうこと
- ・安定的な販路の確立



3 連携までの経過

▶ 泉大津市職員の旭川市訪問（令和4年秋）

有機米購入の打診の結果…

- ① 学校給食用に有機米を購入したい！
価格は48,000円/俵が上限



泉大津市 宮崎課長

- ② 石坂さんが有機米を生産している。
相談してみよう！



旭川市 杉山次長

- ③ 有機米30t提供可能。
販売価格も高く
ありがたい！



有機米生産者
(株)石坂ファーム 石坂代表

連携の糸口を掴む！

両市の連携で目指す姿



旭川市

安定的に農作物
を生産・販売

- ▶ 確実な収益確保
- ▶ 農業の持続的な発展

農業連携



泉大津市

安定的に食料
を確保

- ▶ 市場価格に左右されにくい提供体制の構築
- ▶ 健康と環境にやさしい有機米の安定的な確保

生産地と消費地の共存共生の形を目指す

オーガニックブレッジ宣言までの経過

令和4年 秋

泉大津市職員の旭川市訪問

令和5年 3月

泉大津市「安全・安心な食糧の安定的確保に関する構想」策定

令和5年 4月

泉大津市で農業連携先を選定

▶ 旭川市を含む6自治体を選定

令和5年 8月

旭川市と泉大津市で**農業連携協定締結**
オーガニックブレッジ宣言の協議開始

令和6年 4月

旭川市・泉大津市で
有機農業連携推進協議会設立

令和6年 7月

オーガニックブレッジ宣言
遠隔地連携による宣言は**全国初！**



4 全国初の遠隔地連携 オーガニックビレッジ 実施プロジェクト

1 学校給食連携 有機米提供 旭川DAY

事業費
約1,800万円

▶ 有機米提供

- ・ 泉大津市内全小・中学校で
旭川産有機 J A S 米を
給食で提供
- ・ ゆめぴりか 玄米約 **20t**



(株)石坂ファーム 石坂代表

旭川DAY

- 旭川産の農産物を使用した北海道の郷土料理を提供
- 提供メニュー：ご飯、どさんこ汁ザンギ、有機かぼちゃオーブン焼
- 使用した旭川産有機農作物米（ゆめぴりか）、かぼちゃ



- 発芽玄米入りごはん（金芽米）
- どさんこ汁
- 有機かぼちゃのオーブン焼き
- ザンギ



今回のときめきポイント



今回のテーマは「旭川day!」です

北海道旭川市

泉大津市と北海道旭川市は、「オーガニックビレッジ宣言」という地域ぐるみで有機農業に取り組む宣言を、全国で初めて消費地（泉大津市）と生産地（旭川市）が共同で出しています。今回のときめき給食では、有機産物として旭川市で作られたお米とかぼちゃを使用します！

今給食で毎日食べているお米は、旭川市で生産された農薬や化学肥料不使用の有機玄米を金芽米加工したお米です！



「どさんこ汁」「ザンギ」は旭川市のある北海道の郷土料理です！
みなで旭川市の恵みに感謝しておいしくいただきます！



2 両市間交流推進

事業費
約140万円

グリーン・ツーリズム×こども特派員

▶ 泉大津市のこどもが旭川市訪問

有機農業への理解を深める **グリーン・ツーリズムツアー** 実施

令和6年8月20日～22日（2泊3日）

市内農場・旭山動物園など訪問

親子5組10名が参加



ハーブ摘み取り



トラクター試乗



トマトもぎ取り



水稲ほ場視察

＼こども特派員が旭川の農業を現地取材！／

旭川市の有機農業の秘密

有機農業って何？



皆さんは、このマークを見たことはありますか？
これは『**有機JASマーク**』といいます。このマークは、作物を植える**3年以上前**から畑や田んぼで、**農薬**や**化学肥料**を使っていない認証です。認証後も、**1年に1回以上**専門家による調査で基準に合格しているか確認をする必要があり、**一般的なお米よりしっかりと管理されているお米**です。



有機農業の良いところ

- ① **環境にやさしい農業**
土壌や水質の汚染を防ぎ本来の味を楽しめる！
- ② **栄養たっぷり**
ミネラルやビタミン類の栄養価が高い！
- ③ **安全性の高さ**
残留農薬の心配がない。だから安心安全！



令和6年8月20日から22日に、泉大津市内の小学生5人が旭川市の有機栽培農家さんに有機農業のいいところや大変なところなどを取材しました！

＼給食で提供される／

石坂ファームの有機栽培米を取材！

石坂ファームは有機栽培米を作っています。薬を使わず自然の力だけを使って作った安全でおいしい米です！



7月からの泉大津市学校給食のお米が石坂ファームさんの有機栽培で作ったお米が給食にでています！

有機栽培は化学肥料や農薬を使わずに自然の力を最大限に活かす事に重点を置いています！



農薬を使っている畑よりも雑草が多く生えるので草刈りの回数も多くなり、手間暇がかかります。

北海道旭川市の／

有機の農作物つくっている農家さんをご紹介します！

9/26の給食は谷口農場のかぼちゃ ぞつがっています！
化学肥料や農薬を使わない野菜を30年以上栽培し、有機JAS認証を取得しています。トマトやとうもろこしの収穫体験では、農薬を使っていないのでその場で採りながら食べる事が出来ました。



リアンファーム

農薬を使わずに、約50種類のハーブを育てています。小さな虫を大きな虫が食べて、大きな虫は鳥に食べられて鳥の糞が土に還り、肥料になるという自然の循環で育てられています。ハーブは色々な種類があり、種類によって効果があるそうです。

3 旭川産有機農産物プロモーション

事業費
約320万円



旭川市の農畜産物や食文化に関するPR
「旭川食のアンバサダー」
下國 伸 シェフ

旭川市出身。CHEF-1グランプリ2021で応募総数761人の中から見事優勝し、初代王者に。日本全国を巡り、そこで学んだ経験・知識を生かして食育や商品開発に力を入れている。

プレ万博イベント 「IZUMIOTSU WELL-BEING EXPO 2024」 下國シェフ監修メニュー、有機農産物販売

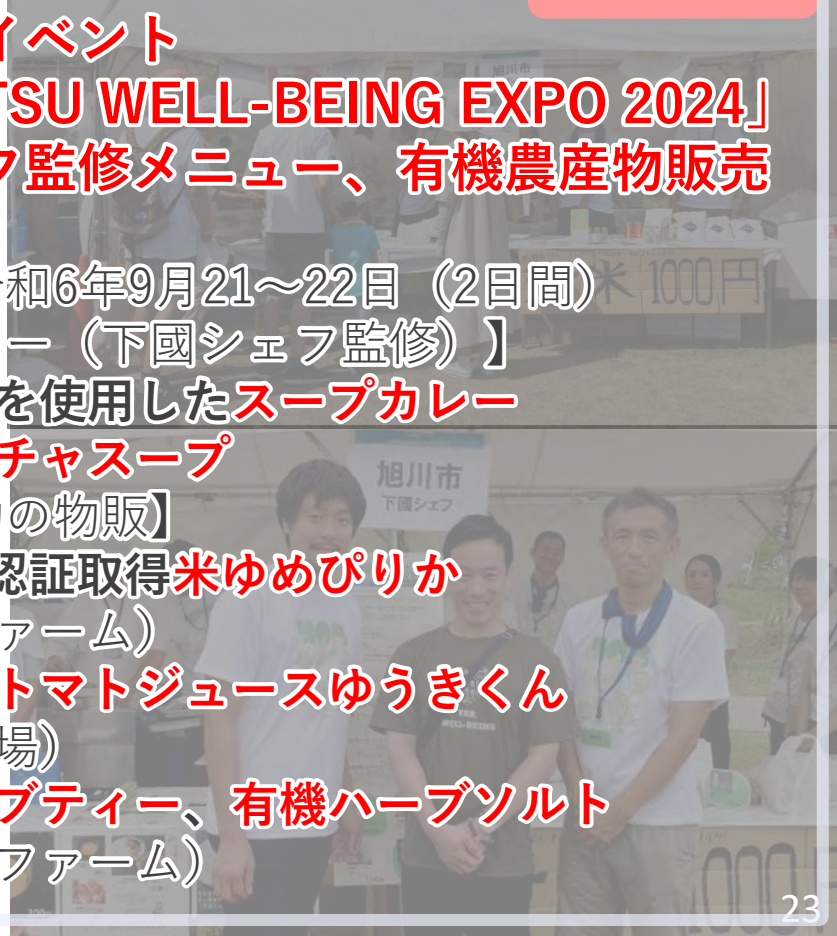
【実施日】 令和6年9月21～22日（2日間）

【提供メニュー（下國シェフ監修）】

- ・ 有機野菜を使用した**スープカレー**
- ・ 有機**カボチャスープ**

【有機農作物の物販】

- ・ 有機JAS認証取得**米ゆめぴりか**
（石坂ファーム）
- ・ 有機栽培**トマトジュースゆうきくん**
（谷口農場）
- ・ **有機ハーブティー、有機ハーブソルト**
（リアンファーム）



4 旭川市内での有機農産物PR (あさひやま夜の動物園レストラン)

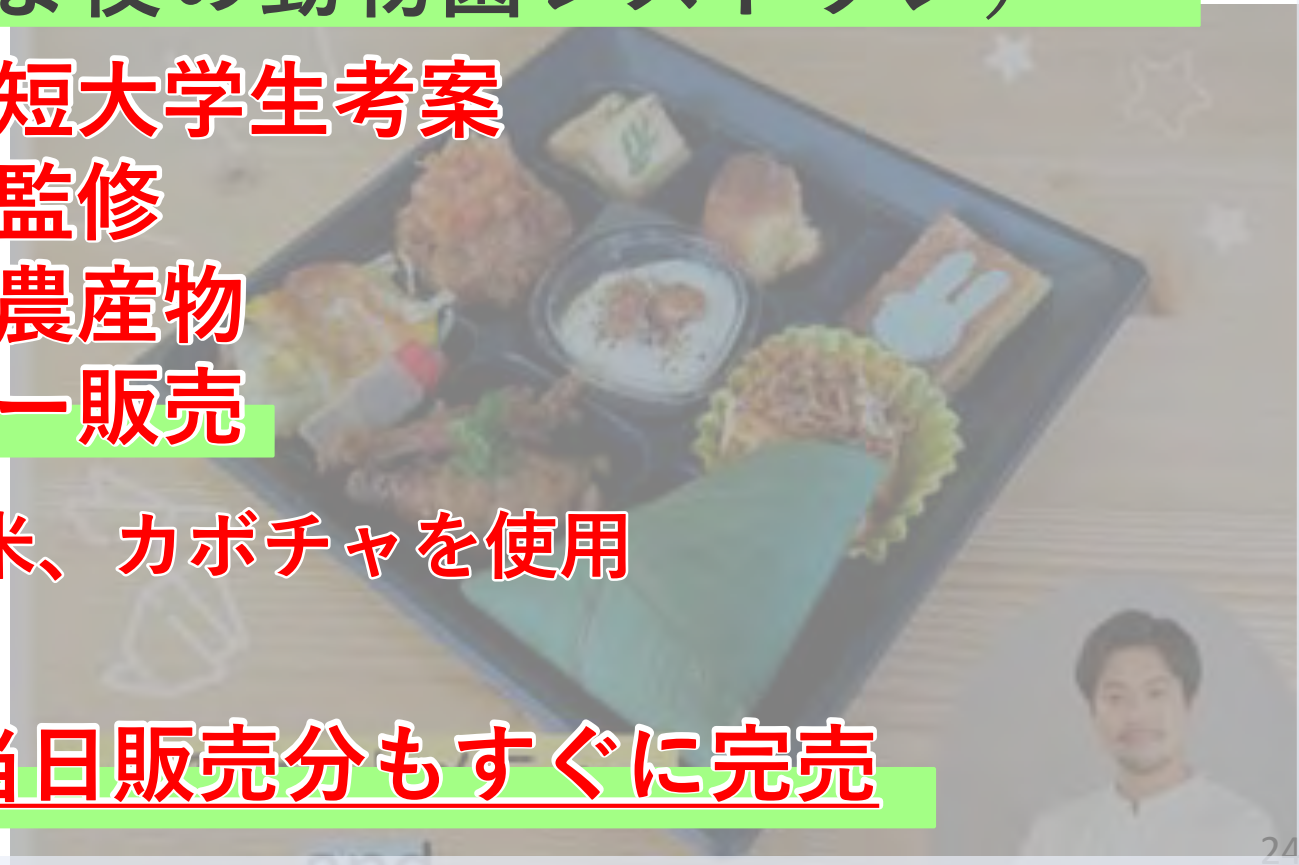
▶旭川市立大短大学生考案

×下国シェフ監修

×旭川産有機農産物
限定メニュー販売

…有機の旭川米、カボチャを使用

事前予約・当日販売分もすぐに完売



5 連携後の両市の変化

連携後の両市の変化

旭川市 有機農業取組事業者増加

取組事業者 ▶ 6倍へ!

面積 ▶ 2倍へ!

2者
約20ha

8者
約36ha

12者
約44ha

令和4年

令和5年

令和6年

※有機農業関係交付金対象者

泉大津市

備蓄用として旭川市から 50tの慣行農業米を確保
食料危機の備えという 目的達成

6 まとめ

(1) 消費地が生産地へアプローチ

- ▶ 消費地…安定的に食料を確保
- ▶ 生産地…販路拡大により有機農業の取組事業者増

(2) 適正価格の販売

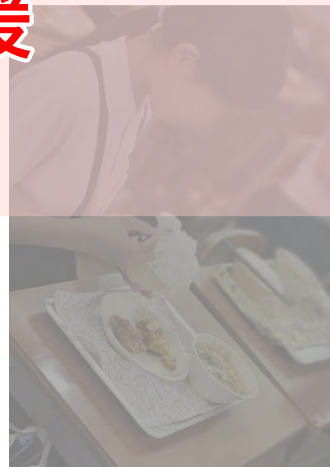
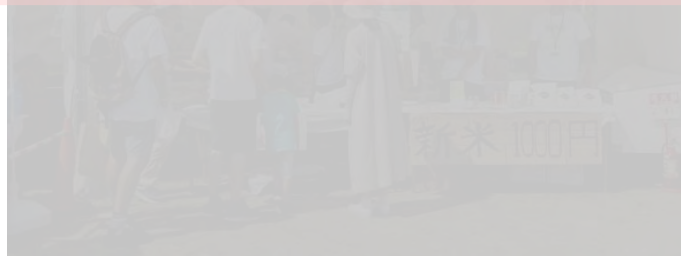
- ▶ 農業者の**所得向上**と
担い手不足の解消に繋がった

(3) 消費者の顔が見えることで 生産者の意欲が向上

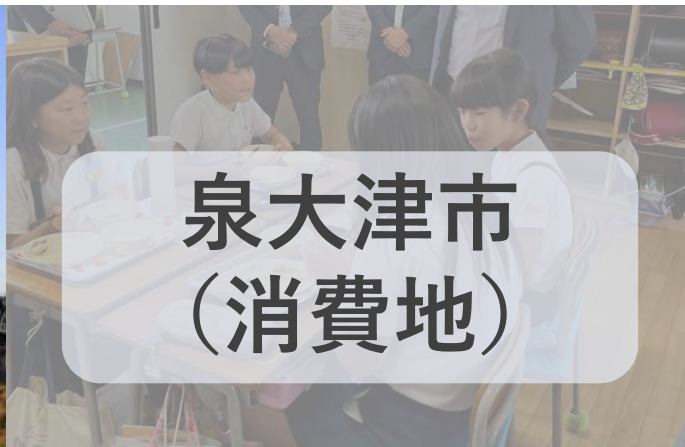


■ 旭川市の課題

- ・ 有機農業関連機械等の導入経費に対する支援
- ・ 有機農産物の輸出スキームなどの情報提供
- ・ 農産物の空輸送経費に対する支援
- ・ 旭川市を国の実証実験の舞台に



生産地と消費地をつなぐ架け橋 オーガニック「ブリッジ」として 今後の有機農業を牽引していく





ご清聴
ありがとうございました

ASAHIKAWA CITY